

第 2 回デジタル田園健康特区区域会議資料
吉備中央町提出資料

令和 5 年 10 月 1 日
吉備中央町長 山本 雅則

吉備中央町が目指すべき姿（吉備中央町デジタル田園都市構想）

現状の課題

- ◆医療環境の不足（特に産婦人科・小児科・救急対応等）
- ◆移動手段の不足（通院・通学・買い物）
- ◆コミュニティ活動の低下
- ◆社会的孤立・孤独の進展

誰一人取り残さないエンゲージメント・コミュニティの創生



きびアプリ（住民向けポータルアプリ）



一元的窓口支援
 有限責任事業組合吉備中央町インクルーシブスクエア (略称 KIBIスクエア)

- ・岡山大学
- ・データ連携基盤
- ・事業評価(Well-being指標)

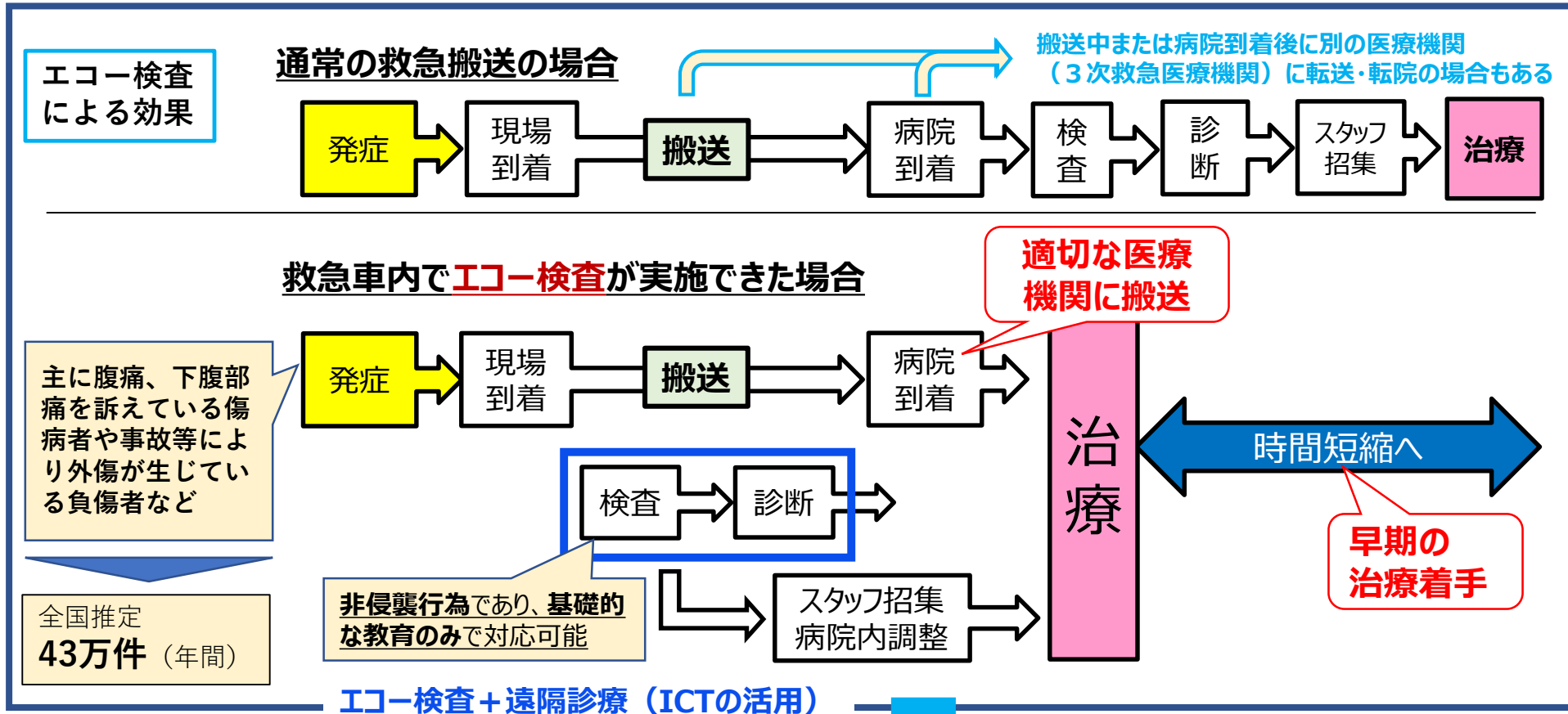
救急医療・遠隔診療

デジタルを活用して、健康管理、買い物、暮らし相談等が一元的に可能に【令和5年3月運用開始】

救急救命士の権限・役割の拡大による救急体制の充実（エコー検査）

◆エコー検査の安全性、難易度、必要性（ユースケースの具体化）、必要となる教育体制の整理や、情報伝送システムの構築等について、内閣府先端的サービス調査事業を活用しながら検討を行ってきた。

→本年8月、**救急医療の現場における医療関係職種の在り方に関する検討会WG（厚生労働省）**にて検討が開始。
 並行して、吉備中央町では、実証開始を想定して、救急車へのシステム構築等の準備を進める。



教育体制

講習会

VR動画

VR動画

早期の処置実施により、救命・予後の改善に貢献し、医療環境の不足という課題に対応

妊産婦の糖尿病治療等に係る保険適用の明確化について

産後フォローに関して改善点すべき点

- 妊娠糖尿病の産後フォローについては、
- ◆ 診療報酬体制
 - ◆ 患者の金銭的負担
 - ◆ 将来の病気発症リスク、次回妊娠時のリスクの啓発に関する改善が求められている



<妊娠糖尿病患者に関する診療報酬上の取扱いの課題>

	妊娠中	産後3か月以内 (12週以内)	産後3か月以降 (12週以降)
加算 *状態に対して算定	在宅妊娠糖尿病患者指導 管理料1 血糖自己測定に 70% 基づく指導を行う	在宅妊娠糖尿病患者 指導管理料2 血糖管理のために 47% 適切な指導管理	
検査 *行為に対する算定 (病名・疑い病名)	上記の管理料等の存在もあり、基本的には算定が認められ、必要な検査項目については保険適用となっている		上段の管理料等が存在しない時期に該当し、毎回の詳記の記載や算定が認められないケースが存在している

※日本糖尿病・妊娠学会主導の妊産婦の糖尿病治療等に係るアンケート調査による
(四角囲みの数値は、認識している医療機関の割合)

- ①：産後3か月以内に行われる血糖管理のための指導管理
- ②：産後3か月以降に行われる糖尿病のケアに関わる検査

について、**保険適用内で行うことが可能**である旨、厚生労働省より**明確化**



- 産後フォローの改善により、
- ◆ **予防医療の充実が図られ、産後女性の健康状態の改善につながる**
 - ◆ **次の妊娠を考えるきっかけとなるなど少子化対策にも貢献**
 - ◆ **医療従事者の事務負担も軽減される**

吉備中央町外国人滞在施設経営事業（特区民泊）の実施について

実施目的：外国人滞在施設経営事業により、宿泊施設等の整備促進を図り、**関係人口の増加に寄与**

実施区域：吉備中央町全域

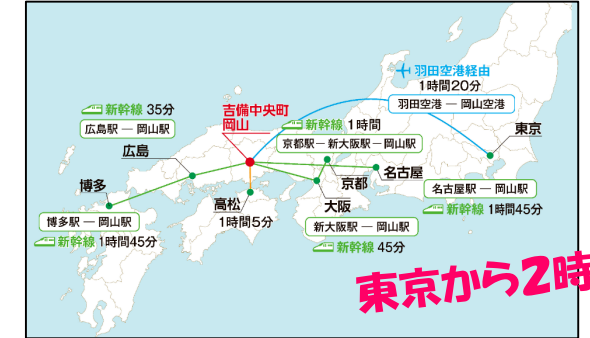
◆恵まれた自然環境により「**心の癒し**」を提供

◆安心・安全なまちへの「**移住体験**」

◆短期滞在型観光による「**経済効果**」を見込む



田園風景



都市部からの
アクセス良好

1. **自然・伝統×短期滞在型観光（インバウンド等）**

2. **自然×メンタルヘルス（癒し）**

豊かな自然や温かい住民等のホスピタリティ（癒し）を活かし、乗馬体験や農業体験等を通じて「心」を癒す。

3. **空き家×移住体験（ショートステイ）**

実際に、吉備中央町の自然環境や日常生活を体験してもらい、将来的な移住者増加へ



星空観察

加茂大祭

ブッポウソウ